

2017年7月18日

本校と映画「算法少女」のプロジェクトがメディアで紹介されました！

同志社中学校数学科

本校と「算法少女」のプロジェクトが、京都新聞7月13日（木）付夕刊、朝日新聞2017年7月16日（日）付朝刊で紹介されました。

和算の「算額」揭示
南区の映画館、同志社中生成成



江戸時代の数学「和算」を授業に取り入れている同志社中学校（左京区）の生徒が作成した「算額」が23日まで、南区の映画館「京都みなみ会館」のロビーに展示されている。和算をめぐるアニメ映画「算法少女」が関西で初上映されるのに合わせた企画だ。

算額は自作の問題や解答を絵馬に描いて、学問成就の祈願などのために寺社に奉納したもの。それにちなみ、同校では毎年、3年生が自作を大津市の三井寺に奉納し、1年間展示してもらっている。映画館に展示されているのは、三井寺で展示を終えた、2年前の卒業生30人の絵馬だ。

同校数学科の團田毅教諭は「和算は、3年生で習うピタゴラスの定理など幾何学の考え方を学ぶのにぴったり。近年、教育現場で注

目され、教科書で各地の算額が紹介されています。映画を見て、中学生の算額も楽しんでほしい」と話す。

「算法少女」の上映は18日から23日まで、各日1回上映。問い合わせは同会館（電話075・661・3993）。

アンパンマンを使うなど、ユニークな問題が並ぶ＝南区

朝日新聞7/16朝刊

外中内



◆日本で発達した数学の和算を題材にした映画「算法少女」の上映が予定される京都市南区で、中学生が作った「算額」の絵馬

が展示されている＝写真。

◆算額は江戸時代、和算の問題と解法を絵馬や額に記して社寺に奉納したものだ。これに倣い、三井寺に算額を毎年奉納している、同志社中（左京区）の生徒たちが作った絵馬30枚を同館のロビーに並べている。

◆絵馬には、生徒たちが自ら考案した数学の図形問題などが書かれ、裏をめくと答え合わせができる。

算法少女の上映期間（18〜23日）まで展示している。

（清原稔也）

京都新聞7/13夕刊